

日 本 史

第 1 問 設問A→赤色 設問B→水色

次の(1)~(5)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(イ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 『千字文』は6世紀前半に、初学の教科書として、書聖と称された王羲之^{おうぎし}の筆跡を集め、千字の漢字を四字句に綴ったものと言われる。習字の手本としても利用され、『古事記』によれば、百済から『論語』とともに倭国に伝えられたという。

『千字文』『論語』
→漢詩文の読み書き、儒教 →律令体制期の日本において習熟が求められた

- (2) 唐の皇帝太宗は、王羲之の書を好み、模本(複製)をたくさん作らせた。遣唐使はそれらを下賜され、持ち帰ったと推測される。

日本も東アジア文化圏の一員
遣唐使がその鍵

- (3) 大宝令では、中央に大学、地方に国学が置かれ、『論語』が共通の教科書とされていた。大学寮には書博士が置かれ、書学生もいた。長屋王家にも「書法模人」という書の手本を模写する人が存在したらしい。天平年間には国家事業としての写経所が設立され、多くの写経生が仏典の書写に従事していた。

鎮護国家思想の隆盛

文書行政
学生、官僚の識字能力向上のため

- (4) 律令国家は6年に1回、戸籍を国府で3通作成した。また地方から貢納される調は、郡家で郡司らが計帳などと照合し、貢進者・品名・量などを墨書した木簡がくり付けられて、都に送られた。

律令国家体制、税体制維持のため
地方においても読み書きの能力が必要

実際の読み書き能力の活用例

- (5) 756年に聖武天皇の遺愛の品を東大寺大仏に奉獻した宝物目録には、王羲之の真筆や手本があったと記されている。光明皇后が王羲之の書を模写したという「楽毅論」も正倉院に伝来している。平安時代の初めに留学した空海・橘逸勢も唐代の書を通して王羲之の書法を学んだという。

唐の文書経国思想の流入

9世紀頃に活躍した三筆
(もう一人は嵯峨天皇)

設 問

租税のことを書かないように注意

A 中央の都城や地方の官衙から出土する 8 世紀の木簡には、『千字文』や『論語』の文章の一部が多くみられる。その理由を 2 行以内で述べなさい。

主題

B 中国大陸から毛筆による書が日本列島に伝えられ、定着していく。その過程において、唐を中心とした東アジアの中で、律令国家や天皇家が果たした役割を 4 行以内で具体的に述べなさい。

主題

条件